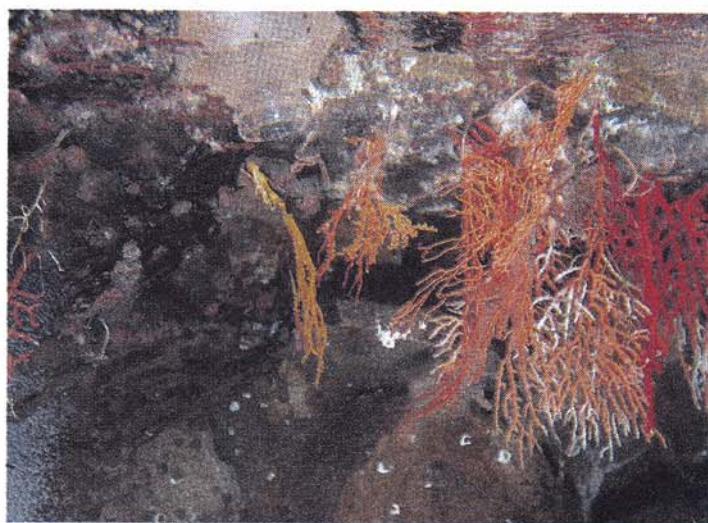


## イソバナとオウギウミヒドラ



# 水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館

4

## 久保田信

お花畠を連想させる刺胞動物門花虫綱の仲間が入った水槽があり、サンゴの親類の色あでやかなヤギ類がいくつも“花”を

寄せ、上方の岩を見ると、樹木状のヤギ類がいくつも付着している。それらはイソバナという種で、平面的に広がった群体だ。骨格の部分の枝を拡大して見ると、小さな硬い骨(骨片)で覆われている。また、イソバナは石のように硬い塊ではなく、

オウギウミヒドラの枝のような骨格は黒ずんでいる。この枝にはイソバナにあったような骨片はない。また、オウギウミ

ヒドロ虫の枝があちらこちらに咲いた白い花(個虫)はこん棒状に伸びて、そこにはたくさんの触手が上下に散らばって生えている。さらに、繁殖時期になると、“花”にミカンの実のようなものをたくさんつける。この実(生殖子)の中には、雄だと精子だと卵ができる。イソバナは体内に生殖巣ができるので外からは見えない。

ヒドロ虫の枝となる微小な動物などを触手で捕らえながら暮らしている。枝の色は群体によって異なっている。このイソバナの群体の

## 外見似るが「他人の空似」

咲かせている。その美しさから白浜水族館パンフレットの表紙やポスターに使われたこともある。水槽のガラス面に顔を

プラスチックのような弾力があるのが特徴だ。南日本の数十倍より浅い海中の岩棚に付着し、餌となる微小な動物などを触手で捕らえながら暮らしている。枝の色は群

ヒドロ虫の枝のあちらこちらに咲いた白い花(個虫)はこん棒状に伸びて、そこにはたくさんの触手が上下に散らばって生えている。さらに、繁殖時期になると、“花”にミカンの実のようなものをたくさんつける。この実(生殖子)の中には、雄だと精

(水槽番号203)

左側にある黒いものが  
オウギウミヒドラ

授

モモンガ)も他人の空似である。(京都大学准教授)